

## 令和7年度 農村 RMO 推進フォーラム（関東農政局）

### パネルディスカッション

日時：令和7年11月20日（木）13:30-16:00

場所：コンファレンススクエアエムプラザ1Fサクセス

#### 【司 会】

株式会社ソトコト

代表取締役 指出 一正 氏

#### 【パネラー】

秋山郷地域づくり協議会

会長 山田 克也 氏、前事務局 越智 勇氣 氏

薄根地域ふるさと創生推進協議会

顧問 小池 大介 氏、事務局長 桜井 勇一 氏

茨城県笠間市

市長 山口 伸樹 氏

事例発表を行った、他の地区の取組に対する感想

指出氏(司会)

#### 山田氏(秋山郷地域づくり協議会)：

- ・ 自分たちが始めた時、過疎化、高齢化が進んだ後でこの事業に取組んでも採算が合わず続けることに様々な課題があった。採算ベースに乗るような取組がなかなかできない。
- ・ 地域の特産を活かすのは、真剣に取組む人がいれば何とかできるのではないかと感じている。皆さんの地域がうらやましく思う。

#### 越智氏(秋山郷地域づくり協議会)：

- ・ 薄根地域は棚田の取組は後発だと思うが、これだけ人が来てオーナー制もできているのはすごいと思った。
- ・ 笠間市のシェア型草刈り機は自分の集落にも欲しいと思う。
- ・ 郵政の方が来て考えてくれてマンパワーにもなるというのも、うらやましい取組。

**小池氏(薄根地域ふるさと創生推進協議会) :**

- ・ 秋山郷について、自分の地域は雪が降っても30センチ、多くても50センチ程度だが、2~3月にみそ作り体験を行うとき、雪が降ったら車で来てもらえるのか、スリップして来られない人が出ないかと心配になる。そんな中で、何メートルも雪が積もる地域で地域づくりを継続していることに感心した。
- ・ 笠間市について、郵便局との関係づくりをされていると聞き、自分たちは郵便局と連携することを全く考えてこなかったが、今日の話聞いてそういう道もあると気づかされた。

**桜井氏(薄根地域ふるさと創生推進協議会) :**

- ・ 秋山郷は、雪深い中で頑張っていると感心している。雪が降ることで地元の若者が雪の少ない街に出て行ってしまふ。遠くに行くわけではないが例外なく非常に過疎化が進み現状維持するのが大変な地域。
- ・ 笠間は、自分が陶芸をやっていることもあり、陶芸の町として何回か訪問したことがある。とても良い場所だと思っている。

**山口氏(茨城県笠間市 市長) :**

- ・ 行政の立場から見て、日本全国様々な自治体がある中で薄根や秋山郷の取組を見ると、我々もまだ努力が足りないのではないかと思います。色々な点でこちらのほうが恵まれている分、そう感じた。

農村 RMO をはじめ、地域や農山村の場所づくりや産業づくりの取組に関して、直面した課題について

指出氏(司会)

**山田氏(秋山郷地域づくり協議会) :**

- ・ 最初からちょっとつまずいた。まず手を上げないと RMO の対象にならないので深く協議しないうちに飛びついたことに反省している。1年でやっと地域の方向性もある程度見えてきたが、担い手がかなり少なくなっている。
- ・ ジビエの加工施設では、特産品として熊肉を活用し、熊と共存しながら進めているた

め、今のところ被害はあまりない。

地域資源として出沒してくれれば嬉しいと、マタギたちは思っていると思う。

ただ、よその地域で取れた物を加工することは今のところ考えていない。マタギの人たちがマタギの伝統と地域の伝統を守りながら自分の生計も営んでいくという形になることを願っている。

#### **指出氏(司会):**

- ・ 食肉処理の加工場についてどう運営しているのか、稼働率はどうか、収益として利益が出るジビエを生み出せているのか。

#### **越智氏(秋山郷地域づくり協議会):**

- ・ 今まで地域内でしか活用してなかったため、地域外に営業をしてお金に変えていく作業が難しい。今は収益にしているが、肉が余るという状況もある。引き継ぐ若者がなかなかいないため、そこをどうみんなで運営していくかが課題。

#### **指出氏(司会):**

- ・ 第6次産業において販路確保は重要。販路がないまま商品開発を進めてしまうケースが多く、消費者の意見を取り入れずに作られるため、収益化が難しい。
- ・ 農山村地域では、このような「物だけ作って販路がない」という状況が起りやすい。
- ・ 越智氏が指摘するように、良い商品があっても販売ルートが確立されていないという問題について適切なレクチャーがなされない限り、同様の問題が繰り返されると思う。現状では、多くの人が良い商品を作れるようになったものの、それを販売する場所を確保できていないことが大きな課題と感じている。

#### **小池氏(薄根地域ふるさと創生推進協議会):**

- ・ 最大の課題は後継者育成であり、そのためにはボランティアに頼らず、収益を上げて協力者(後継者、農家)に適切な賃金や委託料を支払える仕組みを構築することが不可欠である。

**桜井氏(薄根地域ふるさと創生推進協議会):**

- ・ 金太郎飴は例えだが、協議会メンバーも立ちあげ当時とほとんど変わっていない。毎年平均年齢が1歳ずつ上がり、上の人は結構な年になりそろそろ引退したい時期だと思うが、なかなか若い人が入ってこないため今非常に苦労している。
- ・ 収益向上は容易ではなく、管理している田んぼも少ないため、数を増やす必要がある。しかし、その際に適切に管理できるかという懸念があり、対策を講じる必要があると考えている。

**山口氏(茨城県笠間市 市長):**

- ・ 最大の課題は人材不足、特に地域を支えるマンパワーの確保である。農家の後継者については比較的安心できるものの、地域全体の担い手不足は深刻。この解決策として、地域おこし協力隊や企業との連携による人材派遣を推進している。また、資金面では、行政として直接的な営利活動はできないものの、校舎を活用した収益事業、国の補助金、企業版ふるさと納税、ふるさと納税の拡大、クラウドファンディングなどを活用し、多角的に資金を集めながら様々な取り組みに挑戦している。

若い世代が、地域の美しい風景だけでなく、人との関係性やコミュニティの持続にモチベーションを見出すにはどうすれば良いか

指出氏(司会)

**越智氏(秋山郷地域づくり協議会):**

- ・ 私は福岡から長野県栄村へ移住した。震災前の2010年に訪れたことをきっかけに地域との関係が始まったが、移住の大きな動機は地域内に友人ができたことである。何度も誘ってもらったことが支えとなり、「ここで頑張れる」と感じるようになった。
- ・ 現在、マタギの関係で秋山郷には移住者が徐々に増えている。地域出身で狩猟を続けている人は60代以上の3~4名に限られ、それ以下の世代は4~5名で、30~40代は全員が移住者となっている状況である。このため、移住者が地域に溶け込みやすいよう、自ら積極的に声をかけ、交流の機会をつくることを意識している。
- ・ 産業の後継者は一定数確保されているものの、それを地域コミュニティへどのようにつなげていくかが、現在の村の課題であると感じている。

秋山郷は世界に誇るべき素晴らしい場所だが、コミュニティを維持していくうえで、今考えられる最善の方法、アイデアについて

指出氏(司会)

**山田氏(秋山郷地域づくり協議会):**

- ・ 若いころからさまざまな役を担ってきたが、日ごろのコミュニティでは発言するのが中年男性だけで、ご婦人の声あまり上がってこなかった。こうした声の多様性が地域づくりに重要であることに、最近ようやく気づき始めている。中年男性だけに任せとけない時代になってきたと感じている。

後継者を見つけることの難しさについて

指出氏(司会)

**小池氏(薄根地域ふるさと創生推進協議会):**

- ・ なかなか難しい。特に棚田はきつい作業もある。ある取組では、オーナーが田植えや稲刈りに参加した。その様子を群馬県の地元紙・上毛新聞社が取り上げ、記事になった。記事になることで私たちの励みとなり、次はあれをやってみよう、これをやってみようと取組が広がっていった。その結果、農林水産大臣賞をいただいたり、つなぐ棚田遺産に認定されたりと、取組に弾みがついた。しかし、始めたころのメンバーとほとんど変わっていないことに気づき、このままではいけないと感じている。

**桜井氏(薄根地域ふるさと創生推進協議会):**

- ・ 協議会で月 1 回定例会を行っている。いつも出てくるメンバーはほぼ同じで、農業をやっていない人はあまり参加しない。そのため、毎回同じメンバーで進めることになり、特別な意見も出ないことが問題となっている。それではいけないと何年も言われてきており、農業関係者でなくてもよいので若い人を協議会に入れ仲間に引き入れる取組を始めている。しかし、まだ実を結んでおらず、毎年年齢だけが 1 歳ずつ上がっていく現状である。

行政としての施策では、移住や受け入れ、産業上の担い手についてはどのような取組をすると効果が出やすいか

指出氏(司会)

**山口氏(茨城県笠間市 市長):**

- ・ なかなか難しいが、移住については自分の地域の良さをどう見せるかが重要だと考えている。いきなり移住ということはないため、さまざまな体験を通して、将来的に移住してもよいと思ってもらえる形に導く必要がある。
- ・ 産業面では、地域おこし協力隊を受け入れ、例えば栗作りを通じて 3 年間で自立できるよう栗畑を提供するなどの支援を行っている。現状は順調に進んでいるが、将来的な持続性については不確実な点もある。

この 10 年の間に栗が笠間のブランドとして大きく評価された事、笠間焼が全国的・世界的なブランドとなり、陶芸を目的に移住する人もいる流れについて、どのように意識し、どのようにサポートし、形づくってきたか

指出氏(司会)

**山口氏(茨城県笠間市 市長):**

- ・ 陶芸、栗、米作りといった産業を持続させるための最終的な課題は「人」であり、そのマンパワーをいかに確保するかに尽きる。そのためには、移住者に対して、その産業に就いた場合の具体的な収入見込みや、陶芸大学校での学びから独立までの支援策など、明確な計画と産業への道筋を示すことが重要である。

笠間版デジタル田園都市モデル事業は、担い手不足やコミュニティの縮小といった中で効果はあったか、利用者や市や町の人たちから恩恵を実感する声は上がっているか

指出氏(司会)

**山口氏(茨城県笠間市 市長):**

- ・ 3 年間の実証実験は、市全体ではなく約 700 戸の集落で進めたが、想定どおりには進まなかった。参加を呼びかけても全員が応じるわけではなく、若い世代の参加を期待していたのに、中高年層が中心となった。ただ、その層がデジタルに触れる機会になっ

た点には一定の効果があった。

- ・ 社会全体がデジタル前提の生活に移りつつあり、必要に迫られて使い始める人も増えている。スマホを使わない人は、必要性がなかっただけで拒否しているわけではない。行政サービスのデジタル化が進んでいるため、その実態を知ってもらう取組を強化している。

それぞれの地域の課題の打開策について

指出氏(司会)

**山田氏(秋山郷地域づくり協議会)：**

- ・ 自分自身は農業とは無縁で農地もなかったため、この事業に携わってから多くを学ぶことになった。地域を好きになる人を増やし、地域づくりや村を守る人材を育て、その活動を組織としてどう支えるかが重要な役割になると感じている。

**越智氏(秋山郷地域づくり協議会)：**

- ・ 最近まで役場に勤め、その後新しい仕事を始めている。自分たちが目指すコミュニティや形づくりは、山田さんが描くものとは基盤や方向性が少し異なる部分がある。ただ、その違いを理解したうえで見守り、応援してもらえる姿勢は大きな支えになっている。既存のコミュニティの中で新しいコミュニティを立ち上げることを後押ししてもらえるのが嬉しく、そうした環境があれば、好きなことに打ち込めて楽しさも広がると感じている。

**小池氏(薄根地域ふるさと創生推進協議会)：**

- ・ 後継者をどう育てていくかについては、三つあると考えている。  
第一に、収益性を上げて賃金や委託料など、払うべきものをきちんと支払える体制をつくるのが重要。
- ・ 第二に、かつては家の手伝いを通じて農業に親しんできたが、現在の若い世代は地元に住んでいても農業をよく知らない。農業を学べるアカデミーのような施設を設けるなど、教育の場を整える必要があると考えている。
- ・ 第三に、若い人がまったく参加しないわけではなく、年に数回は活動に加わる人もい

る。そうした若い世代に活動の場を提供し、若者がいなければこの取組は継続できないということを丁寧に伝えていくことも大切だと考えている。石墨町からの若者たちが草刈りや竹の伐採に協力してくれているが、彼らとの関係性を継続的に維持し、協力してもらえるようにすることが重要である。

#### **桜井氏(薄根地域ふるさと創生推進協議会)：**

- ・ 群馬県は移住者が多いという話を聞いたが、テレビで見るような状況とは違い、こちらにはほとんど来ないのが現状である。特別移住者に厳しく接するようなことはなく、大歓迎ではあるが、なかなか来てもらえない。石墨地区には今のところ空き家は少ない。ただし、1人暮らしで間もなく生活を引退しそうな住民が多く、近いうちに空き家が増える可能性がある。耕作についても、高齢化で担い手が減り、耕作放棄地が増えている。私たちも一部を借りて景観維持の意味も含めて耕作しているが、すべてを管理しきれぬかどうかは不安がある。それでも可能な範囲で続けていきたいと考えている。
- ・ 人材については、これまでのように自分たちだけで満足しているやり方では、外部の人は入りづらい。何か工夫が必要だと感じているが、まだ模索中で、これから考えていく段階にある。

#### **山口氏(茨城県笠間市 市長)：**

- ・ 先ほど地域コミュニティをどう維持していくかが課題だと話したが、これは産業の維持以上に大きな課題だと考えている。人口 7 万人といっても面積が広く、合併前の自治体ごとに事情が異なる。人口が増えている地域もあれば、それ以上の速さで減っている地域もあり、特に減少エリアでコミュニティをどう保つかが大きな課題となっている。
- ・ 行政の視点でコミュニティとは、行政サービスを住民に確実に届けるための仕組みである。その担い手として民生委員、社会福祉協議会の協力員、保護司など多くの人に関わるが、その成り手が急速に減っている。さらに災害時の対応も基本的にはこうした人々に支えられているが、ここでも人材不足が深刻である。自治会や行政区の代表の成り手も不足し、高齢を理由に役を辞める人も増えている。コミュニティの維持は地域で生活するうえで不可欠だが、その土台が崩れつつあることが大きな課題であり、

今まさに試行錯誤しながら解決策を探っているのが現状である。

笠間市の中でコミュニティが発展し、人が増えている地域と、その逆に減っている地域がある。なぜそのような濃淡が生まれるのか、理由は明確なのか

指出氏(司会)

**山口氏(茨城県笠間市 市長):**

- ・ 1つは地理的条件。鉄道を利用しやすい地域は人口が増え、そうでない地域は減っている。行政としては住民に均一にサービスを提供する役割を持っているが、こうした差は生じている。

農村 RMO や皆さんの取組を3年ほど続けてきた中で、やって良かったと思うこと

指出氏(司会)

**山田氏(秋山郷地域づくり協議会):**

- ・ 実際に取り組んでみて、本当に大変な地域だと改めて感じた。本気で向き合わないと、人口150ほどの地域は簡単につぶれてしまう。その厳しさを思い知らされ、これから後継の人にも覚悟を持ってもらう必要があると考えている。

**越智氏(秋山郷地域づくり協議会):**

- ・ 補助金を使ったわけではないが、発表で紹介したそばとジビエを食べる会や、一再合祭のようなイベントを行ったとき、来てくれた人がニコニコしながら楽しんでくれたのは本当に良かった。こうした取組が続き、外へ広がっていけばいいと思っている。

**小池氏(薄根地域ふるさと創生推進協議会):**

- ・ 棚田のオーナーが田植えをしているとき、新聞記者が取材に来た。するとオーナーさんが「沼田には何年も来ていて第2のふるさとになった」と話してくれた。その言葉を聞いた瞬間、本当にやっけて良かったと思った。

**桜井氏(薄根地域ふるさと創生推進協議会):**

- ・ ホタル祭りやイルミネーションといったイベントを無料で開放して続けてきたが、年々来てくれる人が増えている。今年は熊騒動で来場が少なかったという話もあったが、それでも続けてきたことで、知らない人と知り合いになれたのはうれしい。無料でやっているため収益にはならないが、やって良かったと思う。

**山口氏(茨城県笠間市 市長):**

- ・ 具体的な事例より、役所が失敗してもいいからいろいろ挑戦していく姿勢を市民に見せることで、市民が少し元気になってきたと感じられたことが大きい。ただ、もちろん成功ばかりではなく失敗もある。

今日の参加で気付いたこと

指出氏(司会)

**山田氏(秋山郷地域づくり協議会):**

- ・ 毎回勉強になるが、いざ実践となると、いろんな人にどう動いてもらうか悩むことが多い。それでも組織の中にいる皆さんに感謝しながら、今後も活動を続けていきたいと思っている。

**越智氏(秋山郷地域づくり協議会):**

- ・ 薄根の棚田の話聞いて、規模的にも何となく似ている気がして、自分の地域でもいけるのではと思えたことが一番良かった。

**小池氏(薄根地域ふるさと創生推進協議会):**

- ・ ほかの皆さんの突き当たっている課題を聞いて、皆似たような悩みを抱えていると感じた。だからこそ、こうした場で経験を持ち寄って照らし合わせ、そこで得た気づきを地元を持ち帰って実践し、その結果をまた共有することが大事だと思った。

**桜井氏(薄根地域ふるさと創生推進協議会):**

- ・ 今まで自分たちだけで何とかしようとしてきたが、今日の話聞いて、郵便局や JA な

どほかの組織とコラボしたり力を借りたりすれば、活動をさらに広げられるのではないかと思った。

**山口氏(茨城県笠間市 市長):**

- ・ 秋山郷地区や薄根地区の関係者の話を聞いていると、地域を変えるという強い信念があり、それが今の状況につながっていると感じた。われわれ行政としては変えるというよりも、変わることをキーワードに取り組んでいきたいと思う。

**指出氏(司会):**

農村 RMO から広がって開いたことはすごくいいと思う。地域そのものがどういう道筋を持って前に進んでいくのかという議論だった。

それぞれの地域が大変に美しく魅力的な場所であり、一個人である私も常に尊敬の念で拝見している場所。恐らく参加して下さっている皆さんの地域も、等しく美しく素晴らしい場所だと思う。

その地域を未来に連れていくために、皆さんと一緒に考え方や議論を共有できる場所が生まれていくことを願っている。